

原木測定アプリ「木算」開発

山土場で原木データ作成

クレストック松本事業所（長野県松本市、宮郷拓也所長）と長野県木材協会（須江豊理事長）は、原木測定システム「木算（モクザン）」を共同開発した（3月20日付既報）。山土場作業の簡略化を図るとともに、信頼性の高い原木流通を実現するツールとして注目を集めている。開発に当たっては、12年度林野庁補助事業「地域材供給倍増事業」を活用した。

長野県木材協会受入書等の作業は林友木測定アプリだ。誰も協会は素材生（同松本市、穂刈淳社）が簡単に使えると同時に産業者等16社長（長）が担当しており、現場に即した機能で構成され、同社の中野安久相談役を備えており、正確でカラ松丸太をがこの直送システムを信頼性の高い原木情報山土場から合構築した。中野氏は納を製材工場と共有でき板工場に直送材協会の幹事長を務める。原木市場を通さしている。山土場から製材工

土場で買い付 木算は山土場作業の場に直送する流通方式を促進する強力なサポート。納品書・発されたポータブル原

山土場作業では、測定した数字が後工程で展開しにくい（手書き資料からデータを作成しなければならぬ）という欠点がある。計測、チヨーク記入、確認、仮置き・チェックなど工程が多く、慣れた作業者でないとならぬ効率化が図れないほか、電卓での計算となるため入力ミス等が多発するといった課題を抱えていた。

木算は作業（計測）した情報がその場でデータ化できるのが大きな特徴だ。末口の確認や野帳への記入はタッチパネルで対応することにより、原木データの社内共有が可能となる。データ測定のため、転記ミス等人に依

山土場作業イメージ



- ・測定した数字が後工程にて、展開し難い（手書き資料からデータ作成）
- ・工程が多く、慣れた作業者でないとならぬ効率化が図れない
- ・電卓での計算となるため、入力間違え等が多発



- ・作業（計測）した情報がその場でデータ化できる
- ・立米確認/在庫イメージを社内のスタッフと共有可能
- ・「3.確認」はタッチパネルで対応

エクセル上でパソコンに取り込むことができ、単価を入れて計算できる。

木算を活用すれば、木材供給量をリアルタイムで把握できるほか、製材工場は誰がどのサイズの丸太をどれだけ持っているかが瞬時に分かるため、欲しい丸太をすぐに調達できる。

携帯端末は縦198・5×横120×厚10・45mmのコンパクトサイズで、冬場は手袋をして作業するため操作はタッチペンで行う。トラック業者を登録しておけば、積載可能量をオーバーした場合、音や色で警告する機能も装備している。

これにより、立方計伝票の作成ができるため、山土場での仮置き確認や仮置き本数調整、電話連絡といった運転手に伝票が渡せる作業には、積算を自動で行えるため、1度でトラックへの積み込みを確定できる。

従来は、積算を自動で行えるため、1度でトラックへの積み込みを確定できる。データ測定のため、転記ミス等人に依